

記録
ビデオ
カラー／25分
日・英語版

- 企画
大成建設株式会社
- 指導協力
建設省国土地理院
東京大学地震研究所
日豊測量設計
宇宙開発事業団地球
観測センター
佐原市立伊能忠敬記
念館
長崎市立シーボルト
記念館

スタッフ

- 製作
村山英世
- 脚本・演出
山田和広
- 撮影
木村光男
大野 洋
- 撮影助手
今野聖輝
松井美喜夫
- 照明
芝テック
- 選曲
角田 敦
- 編集
大高 勲
- 解説
徳広夏生

文部省選定 科学技術庁推奨 土木学会選定
第35回科学技術映像祭科学技術庁長官賞
第32回日本産業映画コンクール奨励賞 第7回日本産業文化映像祭
銅賞・科学技術庁長官賞 第16回土木学会コンクール準優秀賞
第5回 TEPIA ハイテク・ビデオ・コンクール優秀作品賞
タモリ倶楽部・東京ファンタスティック土木映画祭最優秀賞

富士山の高さが初めて測られたのは、江戸時代のことで、明治以降測量技術の発展と共にその高さは書き替えられてきた。その測量の歴史と共に、今までの直接水準測量法と最新の「GPS 測量」を比較紹介し、これらの技術の応用を展望する。



3,776m の富士山。その高さはどのようにして測られたのだろうか。今までの標高は山麓から間接的に測った値「三角測量」による値で、直接山頂まで登山して測る「水準測量」によるものではなかった。

1993年夏、初めて山頂までの徒歩による「直接水準測量」と、人工衛星を利用した「GPS 測量」により、富士山の高さが検証された。その結果、3,774.971mでこれまでより1m低い値が得られた。

映画は、測量の歴史とともに、50日間に及ぶ膨大な時間と労力をかけ、測り継いだ富士山計測の記録である。